

人を信じよ、しかし、 その百倍も自らを信じよ(手塚 治虫)

校長 桐野 和之

皆さんのなかで「鉄腕アトム」「ブラックジャック」や「火の鳥」「リボンの騎士」を知っている人がいるでしょうか。これらの作品を描いた人が手塚治虫さんです。手塚さんは生涯に六〇四もの作品を描き「漫画の神さま」と呼ばれた人です。枚数では一五万枚以上になります。一日に七枚の原画を毎日休まずに描き続けても六〇年かかります。この枚数は世界一としてギネスブックに載っています。



日本は今や、世界で一番のアニメ大国となっています。そのおかげで、皆さんは「ドラえもん」や「サザエさん」をテレビや映画館で見ることができます。実は国産のアニメの第一号は、校長先生の世代の人たちが夢中になって見た、「鉄腕アトム」という漫画でした。作者は手塚さんです。このテレビ番組は三〇分でした。それ以来、日本のテレビアニメは三〇分が目安になりました。また、手塚さんは世界で最初に漫画のアシスタントさんを使うという制度をつくりました。それによって世界初の週刊少年漫画を刊行することができました。私も「少年マガジン」や「少年サンデー」、「少年チャンピオン」を夢中になって読んだ記憶があります。手塚さんのおかげだったとは知りませんでした。



こんなにたくさんのお仕事をしていますから、手塚さんには、びっくりするような特技がありました。手塚さんは原稿を書くときに、鉛筆で下書きをすることなくいきなりペンで描き始めたそうです。これには、アシスタントさんは皆とても驚いたそうです。しかも、手塚さんは、フリーハンドでかなり正確に円や直線を描けたそうです。さらには、常に原稿に追われていた手塚さんは、飛行機や電車などの揺れる乗り物の中でも作品を仕上げるのが少なくなかったそうです。睡眠時間は、一日平均三～四時間が普通だったそうです。最も忙しいときには、ひと月に数日しか眠らないということもしばしばあったそうです。そんな手塚さんが座右の銘としていた言葉が「人を信じよ、しかし、その百倍も自分を信じよ」です。座右の銘とは、いちばん大切にしている言葉という意味です。手塚さんは、作品を仕上げながら電話で編集者と次の違う作品の構想を相談することもよくあったそうです。アシスタントさんとも、時間をたっぷり取って話す時間はとれませんでした。ですから、自分が想定していたことと違うことが度々あったようです。でも、どんなときでも自分を信じて、ひたすら漫画を描き続け、素晴らしい作品を世に送り出しました。この言葉、常に新しい表現方法を追い求めていた手塚さんがどれだけの強い精神力で制作していたかがよくわかる言葉です。そして、人を信じよという言葉からは、手塚さんの温かな人柄も伝わってきます。

手塚さんの、「人を信じよ、しかし、その百倍も自らを信じよ」という言葉はとてすばらしい言葉ですね。皆さんにも日々の生活のなかで、ぜひ大切にしていきたい言葉です。

夏休みの思い出

中学校を卒業して四十数年が経った。夏休みの思い出として甦ってくるのはやはり中学校三年生の夏休み。自分は中学校三年間柔道部に所属。勝った思い出よりも、負けたことが痛烈に思い出に残っている。前年の中学校二年生のときには、釧路市—釧路管内—北海道大会を勝ち抜き、全国大会に出場。大会は宮城県の仙台市で開催。もの凄く暑かった事を覚えている。

それもそのはず、地元の釧路市は夏でも最高気温が二十度を下回ることが決して珍しくない土地。その涼しいところから、毎日三十度を上回る仙台市へ遠征。宿舎では暑くて、夜はよく眠れなかった。大会は秋田県の代表校に勝利し、兵庫県の代表校に敗れた。試合後に、その時の二年生のメンバー同士で約束し、お土産は絶対に買わない。来年三年になったらもう一度全国大会に出場して、「その時に記念になるものを買おう。」と約束していた。ところが秋にメンバーの一人が思わぬ転校で欠けてしまい、やや不安の残る中で三年生の夏、七月の大会を迎えた。

心配は的中。何と釧路市大会の準決勝(五回戦)で1-2の敗退。悔しくて泣くでもなく、ただ、ただ呆然と立ち尽くすだけだった。それから数日間は何もやる気が起こらなかった。全く意欲というものが湧いてこなかった。夏休みに入る直前に、何人かの友人同士で気分転換に釣りに出かけた。釣りをしながら、「もう今の自分には勉強しかない。」と半分ふて腐れたような感覚をもった。



夏休みはほぼ勉強。よく勉強した。とにかく毎日勉強。北海道の夏休みは二十五日間しかないが、それを全て勉強に充てたと記憶している。ただある日、友人に誘われて、友人の親戚の家に泊まりに行った。昼迄一緒に家で勉強し、友人と電車に飛び乗って庶路というところに行った。冷たい湖で泳ぎ、友人の親戚の家に泊まり、翌日の昼までに帰ってくるという弾丸旅行をした事は覚えている。ほんの少しの息抜き。柔道で負けた事が、全国大会に出場するという夢が破れたときから、本当にふて腐れてしまった感覚で受験勉強に力を入れた。



夏休み明けの学力テストや定期考査、当然結果は出た。自分じゃないぐらいに良い成績、結果。思わず笑ってしまった。何だ、今までの自分は手抜き勉強だったのか。悔しさから勉強した事で、自分の違う側面を見たような気がした。でも相当悔しかったのだと思う。

悔しさも忘れた秋の東北北海道大会で、全道二位のチームと試合。自分たちが勝った。「何だ、俺ら勝てる。強い。」と、夏の大会で負けたことを思い出し、またガッカリした。あの夏の日、それまでに負けたことがない学校相手に敗れ、悔しくて落ち込んだことを思い出す。

でも、何らかの目標をもつことは人間の強み、パワーになる。試合という目標に向かって頑張ったこともそうだが、負けたことで開き直り、「もう俺には勉強しかないと思った自分の馬鹿力も凄いものだ」と思う。「人間どっちも、どっちか。」と思う。しかし、振り返ると、試合に負けたことで急に目標を失った。でも力だけは十分に残っていた。「努力をしないのは単なる言い訳に過ぎない」と自分自身思った。



夏休みというのはヒョッとしたら自分を変える、あるいは成長させる時期や機会になるのかもしれない。勉強嫌いの自分が夏休み中勉強をしたのだから。中学生である君達にはいろいろな可能性があるはずだ。

野口 雨情 - シャボン玉 飛んだ

朝礼講話 7 / 1

皆さんは、「七つの子」という歌は知っていますか。

「からす なぜなくの カラスは山に かわいい七つの子あるからよ」

さて、ここで問題です。「七つの子」というのは、「七歳の子ども」のことでしょうか。それとも、「七羽の子ども」がいることでしょうか。皆さん考えてください。

正解は、「七歳の子」です。昔は、子どもと言えば「七歳」が一般的、代表的だったんですね。いまでも「七、五、三」のお祝いとして、三歳、五歳、七歳にはお祝いする習慣が残っています。

この「七つの子」は野口雨情という人が作詞した歌です。野口雨情は茨城県の出身で、北原白秋、西条八十とともに、「童謡界の三大詩人」と言われた人です。童謡や流行歌などの作曲で有名な中山晋平と組み、「証城寺の狸囃子」など、多くの名作を残しました。

ところで、皆さんはシャボン玉を飛ばして遊んだことはありませんか。たぶん、ほとんどの人が一度はやったことがあると思いますが、野口雨情が作詞した歌に「シャボン玉」という歌があるので、紹介します。

「シャボン玉 飛んだ 屋根まで飛んだ 屋根まで飛んで こわれて消えた」という歌です。

もちろん皆さん知っていますよね。多くの人が歌ったことがあると思います。

野口雨情という人は、子どもが大好きなひとでした。それでたくさんの童謡を作詞したのですが、結婚してもなかなか子どもができませんでした。「子どもがほしい」「子どもがほしい」とずっと願っていたのです。その願いが神さまに通じたのか、二七歳のときに、やっと子どもが生まれました。野口雨情の気持ちはどんな気持ちだったと思いますか。想像してみてください。

野口雨情は、もう、うれしくて、うれしくて、急いで病院に駆けつけました。

しかし、待ち望んでいた子は、生まれてすぐに死んでしまったのです。その悲しみを歌ったのが「シャボン玉」です。「シャボン玉」の歌は亡くなった子への野口雨情の鎮魂歌だとも言われています。

「シャボン玉消えた 飛ばずに消えた 生まれてすぐに こわれて消えた 風 風 吹く な シャボン玉 飛ばそ」

シンプルで歌いやすい歌詞は、思わず口ずさみたくくなります。楽しく歌いたくなります。でも、「シャボン玉」の歌の歌詞を作詞した野口雨情の気持ちを考えながらこの歌を歌うと、皆さんの歌い方もちがってくるのではないかと思います。

今年も貫井中学校では合唱コンクールがあります。音楽の時間だけでなく、コンクールの準備期間などでしっかりと歌ってください。歌は皆さんを元気にし、心を豊かにしてくれます。また、今日の話思い出して、その歌をつくった人の気持ちや、歌の歌詞の意味、情景などを考えながら歌ってください。そうすると皆さんの歌声が、きっと皆さんの人の心に響いてくると思います。



第1回学校評議員会の報告

◇平成31年度（令和元年度）本校の学校評議員（敬称略）

比田井 雅博 [本校同窓会長]	町田 教子 [民生児童委員]
田場 晋 [前本校PTA会長]	齋藤 幸夫 [青少年委員]
神藤 雅子 [第三地区育成委員]	関口 泰五 [青少年委員]
落合 泰三 [現本校PTA会長]	横山 鉄夫 [貫井町会役員]

学校評議員は、教育に関する理解および識見を有する者のうちから、校長が推薦し、練馬区教育委員会が委嘱するもので、一年間の任期中、校長の求めに応じ、つぎの事項について意見を述べる役割を担います。

(1)学校の教育方針および教育計画 (2)生徒に対する指導方針 (3)学校、家庭、地域、諸機関との連携

令和元年度第1回学校評議員会は、6月27日（木）17時30分より開催されました。まず、校長より各委員に委嘱状が手渡され、令和元年度の学校経営方針や学校生活の様子を、パワーポイントを用いてわかりやすく説明されました。さらに、本校の進路指導の取り組みについて進路指導主任より話があり、本校の卒業生が多い評議員の方々には、時代の流れの速さを感じると、異口同音に述べられていました。和やかな雰囲気の中、貫井中学校生徒の健全な成長のために、今後も連携を深めましよう、会を終了しました。

部活動等の報告

卓球部…◇第57回練馬区中学校生徒総合体育大会卓球大会 6月22日（土）・29日（土）

結果：男子団体 優勝 *区代表として東京都中学校選手権大会に出場

関口恭央・齋藤勇翔・松原大芽・山根侑大・前山颯汰・橋本伊央里・山縣碧・江藤陸

2回戦 貫井中3-0練馬東中 3回戦 貫井中3-0大泉北中

準決勝 貫井中3-2中村中 決勝 貫井中3-1開進第一中

男子個人 関口恭央：ベスト16 松原大芽：ベスト16

橋本伊央里：ベスト32 齋藤勇翔：ベスト32 前山颯汰：ベスト32



バドミントン部…◇練馬区中学校総合体育大会選手権大会 団体戦6月29日（土）

結果：男子 1回戦 貫井中2-0三原台中 2回戦 貫井中0-2開進第四中

女子 1回戦 貫井中2-1大泉北中 2回戦 貫井中2-1練馬東中

準々決勝 貫井中1-2中村中 順位決定戦 貫井中1-2石神井西中 *ベスト8

◇練馬区中学校総合体育大会選手権大会 個人戦7月7日（日）

結果：〈男子シングルス〉後藤佳大：ベスト16 河相駿：3回戦敗退 日吉貴莉央：2回戦敗退

〈男子ダブルス〉樋口・矢野組：2回戦敗退 篠・徳永組：1回戦敗退

中野・佐藤組：1回戦敗退

〈女子シングルス〉山本珠永：第3位 *ブロック大会進出 山代愛葉：3回戦敗退

石原明理：2回戦敗退 栗津咲：2回戦敗退

〈女子ダブルス〉高橋・西田組：3回戦敗退 齋藤・錦見組：2回戦敗退

小浦・金井組：2回戦敗退



陸上競技部…◇第70回東京都中学校地域別陸上競技大会区部大会 6月15日（土）・16日（日）

結果：男子西部 3年100m 第3位：安納隆一郎 11.76秒 都大会進出

◇第33回東京リレーカーニバル 6月29日（土）・6月30日（日）

結果：男子中学共通4×100m 第4位：山根幹太・成田航輝・安納潤之佑・安納隆一郎

男子中学3年100m 第3位：安納隆一郎 11.41秒

男子中学2・3年 走幅跳 第2位：安納隆一郎 6m53

◇第58回東京都中学校総合体育大会陸上競技大会

第65回全日本中学校通信陸上競技東京大会 7月6日（土）・7日（日）

結果：2・3年男子走幅跳 第4位：安納隆一郎 6m37

男子中学共通4×100m 山根幹太・成田航輝・安納隆一郎・安納潤之佑

